

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第105回 ●

■ コロナ禍での名人戦

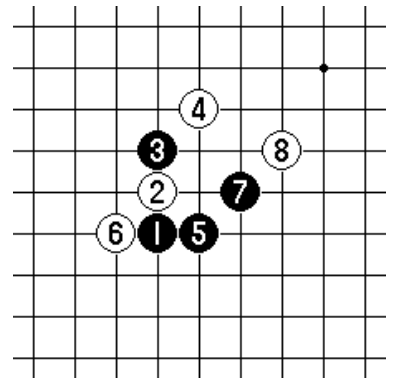
新型コロナウイルス対策がだんだん日常に取り入れられるようになってきたが、連珠にはまだまだ制限があるようだ。

そんな中、名人戦が開催されたのは非常にうれしい。観戦ができなかったのは残念だが、ネットを利用した解説が活発になることで、新たな楽しみ方が増えたようだ。私も解説に回って楽しく見ることができた。ただ、非常に疲れた。打つのも大変だが、見るのも大変なのだ。

さて、A級リーグを取り上げるとキリがないので、今回は挑戦手合いを解説していこう。

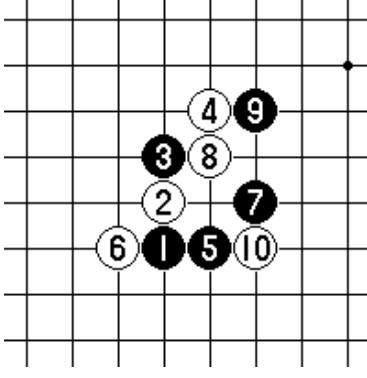
まずは、第一局。
黒 中山 阪先白 中村

<第1譜 1~8>



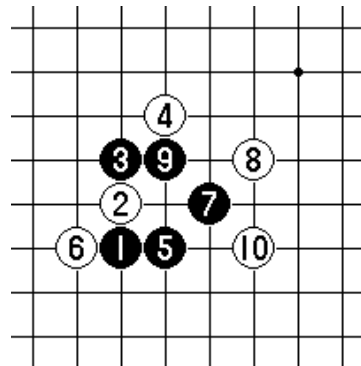
寒星の指定は挑戦者にとって予想外だったようだ。途中から局面を見たのだが、まず違和感があったのが白8。中村名人なら当然次の図のように三を引くだろうと思っただからだ。

<白8の変化>



例えば白10までなら白

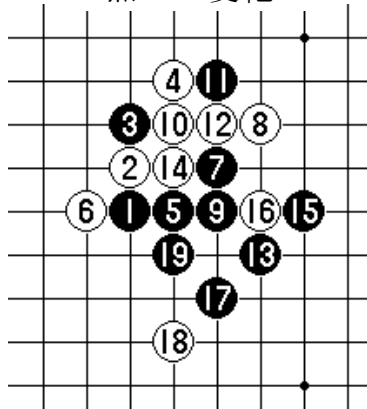
<第2譜 1~10>



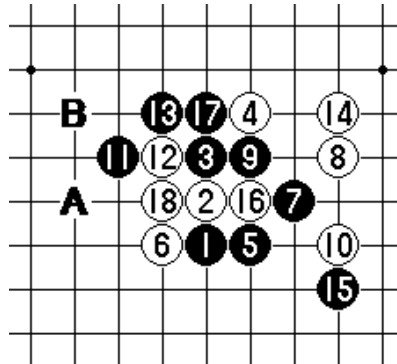
はまずまずだと思っただが、私の感覚が狂ったのか？

そこでまた黒9があれ？という一手。これだと白10がぴったりで、いかにも黒が苦しいように見える。解説では、黒9と打つ手が良さそうということだった。

<黒9の変化>



<第3譜 1~17>

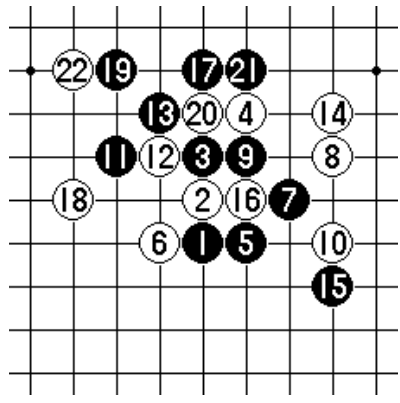


黒9に白10、12なら、黒13から引き出して黒19まで簡単な黒勝ちがある。この手がなければ、白はかなり特別な防ぎをしなければならぬ。白10で15だろうということだったが、これなら黒がかなり有利だ。

本局はなかなか予想が当たらない局でもあった。黒17は予想ができない一手で、それに対する白18も普通ならAかBの所だ。特に白18は「悪くはないけどAかBに打って外側に回ったほうがもつといいね」と言いたいような一手である。まさ

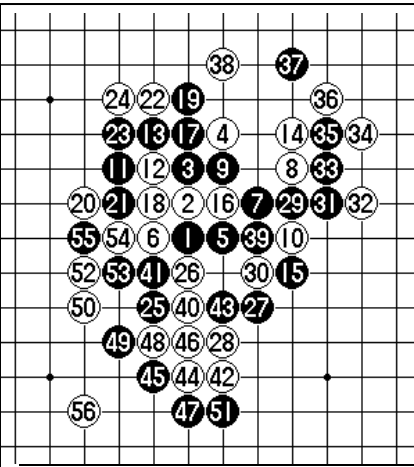
に「名人に定石なし」だ。

<黒 17 の変化>



また、話が前後するが、黒 17 から 17、19 と攻めても、白 20、22 で止まっているようだ。

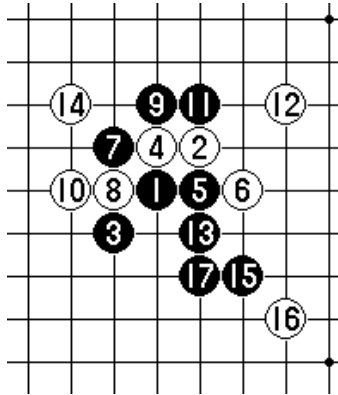
途中から白が攻める展開になり、最後は白が四々禁



に打ち取った。続いて第二局。

仮先黒 中山 白 中村

<第 1 譜 1 ~ 17>



第二局は斜月だった。これも予想外だったが、打たれた内容はここ近年流行している黒 7 の変化だった。

この形も研究が進んで、必ずしも黒が悪くはないようだ。白 12！が研究の一手。

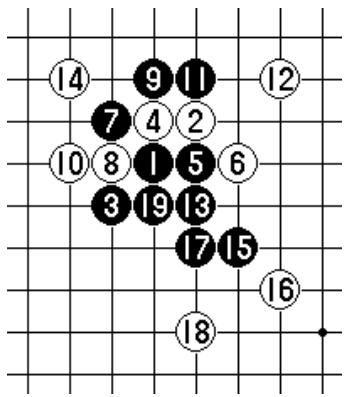
対して黒 13 から 17 はそんなに難しくない変化のようだが、ここで中村名人が大

長考。昼食休憩を挟んで 2 時間以上の大長考だった。

どうも形勢芳しくないと感じていたようで、長い時間をかけて自分の負けを讀ん

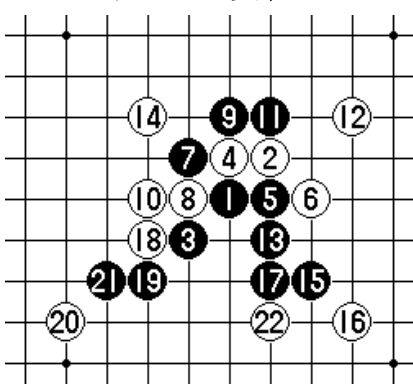
でいたようだ。

<白 18 の変化>

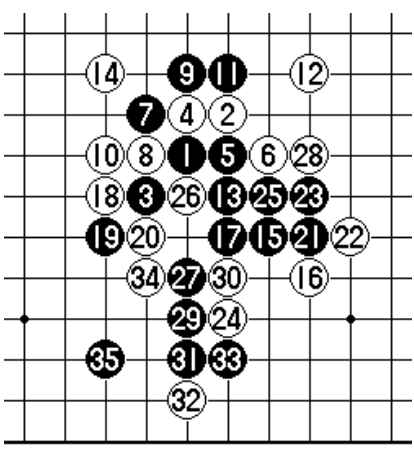


局後検討で名人は譜の白 18 をメインに讀んだもの、黒 19 から直接勝ちがあると読み、あきらめたようだ。(しかし、読み抜けがあり黒勝ちではなかった) それにしても、白 18 黒 19 の交換の後、白 20、22 や単

<白 20 の変化>



に白 20 で 22 に止める手などがあり、まだまだ厄介だ。ちよつと名人の讀みに抜けがあつたようで、今後の戦いでも心配なところである。結局、白 20 が淡白な防ぎで、以下黒 21 から追い詰めとなつた。



これで仲良く 1 勝 1 敗。勝負は第三局以降に持ち越された。コロナ禍ではあるが、ネット配信が一気に進んで新しい観戦の方法が確立したようだ。私も解説で貢献していきたいと思つている。ネットでも連珠はい